



初夏に向け、日に日に暑さを感じる今日この頃ですが、皆様お元気にお過ごしでしょうか？新型コロナも一向に治まる気配が感じられません。梅雨の時期を迎え、田んぼに水が張られ、秋の豊作を願い今年も稲の新苗が植え付けられました。一日も早くコロナが収束し、かつての平穏な日常に戻ることを願うばかりです。

第42回 大隈祭を開催！

去る5月8日(日)、記念館の大隈侯銅像前広場において、42回目となる「大隈祭」を開催しました。コロナ禍の下で、ここ数年は参加者を絞っての開催とはなりましたが、春の陽光の下、大隈侯の遺徳を顕彰しました。

早稲田大学出身の薩摩琵琶奏者 北原香菜子氏の琵琶演奏でオープニング。最初に大隈重信記念館保存会の理事長である坂井英隆市長のあいさつの後、令和3年度の大隈重信スピーチコンテストの入賞者である3名の高校生によるスピーチを披露していただきました。



▲真辺副館長(教授)

その後、記念講演として早稲田大学歴史館副館長で文学学術院教授の真辺将之氏に「大正時代の“大隈ブーム”－新時代の幕開け」と題した講演をいただきました。

また、山口祥義県知事の祝辞を受けた後、早稲田大学応援部の皆さんに校歌並びに応援歌を奉納いただき式典を終了しました。

また、午後からは、大隈重信侯没後100年特別記念講演として財務省理財局国庫課長の西方建一氏から「新しい硬貨とお札、そして円の未来」と題し、大隈侯の尽力により現在の貨幣の単位「円」が誕生したことなど普段聞くことのできない貴重なお話をしていただきました。

たかなわちくてい

高輪築堤 を再現展示しています

明治5(1872)年、日本初の鉄道が新橋～横浜間で開業しました。

鉄道開業に際し、各方面から反発を受けた大隈侯でしたが、陸ではなく誰も考えもなかった“海”に堤を築いて線路を通すことを決断しました。その時に造られたのが「高輪築堤」です。

この遺構が見つかったことが最近話題となりましたが、県では本年4月に遺構の一部を大隈侯の故郷にと、県立博物館及び大隈重信記念館、早稲田佐賀中学校・高等学校の3ヶ所に展示することとしました。大隈重信記念館では、記念館の入り口の右手に築堤の石を展示するとともに案内板を設置しています。また、館内では鉄道事業に関する映像も放映しています。



早稲田大学創設者 大隈侯に学べ・・・

5月31日(火)、唐津市にある早稲田佐賀中学校1年生、140名(4クラス)が、「大隈ゆかりの地探訪」と銘打ち、早稲田の創設者である大隈侯について学ぶために、記念館を訪れました。この学習は学校が2010(平成22)年4月に創設以来、毎年行われているものです。生徒達の目には果たして大隈侯はどう映ったのでしょうか・・・？



